

2018年全労済地域貢献助成事業

活動報告会

いつでも起こりうる災害をよりよく生きるために
～地域住民とともに地域を支える一員に～

一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと



令和1年8月 青森市立東中学校「中学生防災教育プログラム避難所運営訓練」



令和1年6月 青森市立筒井中学校「中学生防災教育プログラム」

活動の背景、ニーズ

度重なる
災害

防災意識
が低い

地域の防
災力UP



若者

男女共同参画の視点を取り入れた防災教育は人権や命の大切さなどについても学ぶことができる

中学生や高校生が訓練に参加する意味

①学校を良く知る中学生・高校生は避難所を支える力になる

②将来、地域を支える大人になる



・地域をもっと好きになる



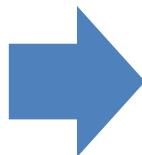
・世代間交流につながる



・自分の役割を見つける



・災害・防災について学ぶ
・男女共同参画についての理解



- ①考える力
- ②判断し、行動する力
- ③生き抜く力

自己有用感を高める！

青森市内の中学校（19校）で 防災教育を実施したい！

全労済地域
貢献助成事
業に応募！
採択



1年目
は

青森市内8中学校で12回実施！

〈防災教育プログラム内容〉

テーマ

「災害から命を守る～中学生にできること～」

	中学校名	実施日	対象学年	実施内容
1	筒井中学校	6/26	2学年	Aパターン
2	戸山中学校	7/16	1学年	Bパターン
3	青森北中学校	7/17	全校生徒	Aパターン
4	青森東中学校	8/18	1学年	Cパターン
5	新城中学校	8/20	教職員対象	講演
6	沖館中学校	8/27	1学年	Aパターン
7	沖館中学校	8/27	2学年	Aパターン
8	沖館中学校	8/27	3学年	Aパターン
9	三内中学校	9/3	2学年	Aパターン
10	新城中学校②	9/5	3学年	Bパターンの②
11	新城中学校①	9/6	3学年	Bパターンの①
12	青森西中学校	11/18	2学年	Bパターン

学校のニーズに応えられるよう、
多様なプログラムを提示！

〈Aパターン〉

- ・時間：60分
- ・対象：中学校の生徒
- ・内容：
 - ア. 導入（15分）「命を守った中学生の取組」
 - イ. シュミレーションクイズ（25分）
「その時、自分はどうするか～考える力・
判断力・生き抜く力～」
 - ウ. まとめ

〈Bパターン〉

- ・時間：120分
- ・対象：中学校の生徒、教員、保護者、地域住民
- ・内容：Aパターン（ア、イ、ウで60分）
+避難所体験（50分）

〈Cパターン〉

- ・時間：2時間～3時間
- ・対象：中学校の生徒、教員、保護者、地域住民等
- ・内容：Aパターン（ア、イ、ウで60分）
+地域・中学校が実施している既存の防災訓練

スケジュール

2月	青森市教育長への依頼 校長会での説明 実施校の募集（青森市教育委員会の協力）
4月～	実施校への説明訪問
5月～	第1回災害から子供たちの命を守る連携機関会議 実施校との打ち合わせ
6月～11月	・各学校における「防災教育プログラム」の実施 ・アンケート集計
11月	第2回災害から子供たちの命を守る連携機関会議
12月	報告書の作成 青森市への提言

防災教育A（基本）パターン

ア. 導入（15分）

「命を守った中学生の取組」

イ. シュミレーションクイズ

「その時、自分はどうするか～考える力・判断力・生き抜く力」

ウ. まとめ

ふりかえり



Q. 海岸から、どれくらい離れていると思いますか？
じゃあ、挙手でいきましょう。

- ① 500メートル
- ② 1キロ
- ③ 2キロ

【釜石東中学校】心がけていたこと

- ①津波が来たら逃げる
- ②想定にとらわれない、最善を尽くす
- ③率先避難者になれ

⇒学校にいた子どもたちで亡くなった人はゼロ！

⇒「釜石の奇跡」

Q3 どうしますか？

朝5時56分。震災から10分。あなたが高台に避難していると、小さな子どもの泣き声がました。子どもを2人連れたお母さんが困っているようです。あなたは、どうしますか？



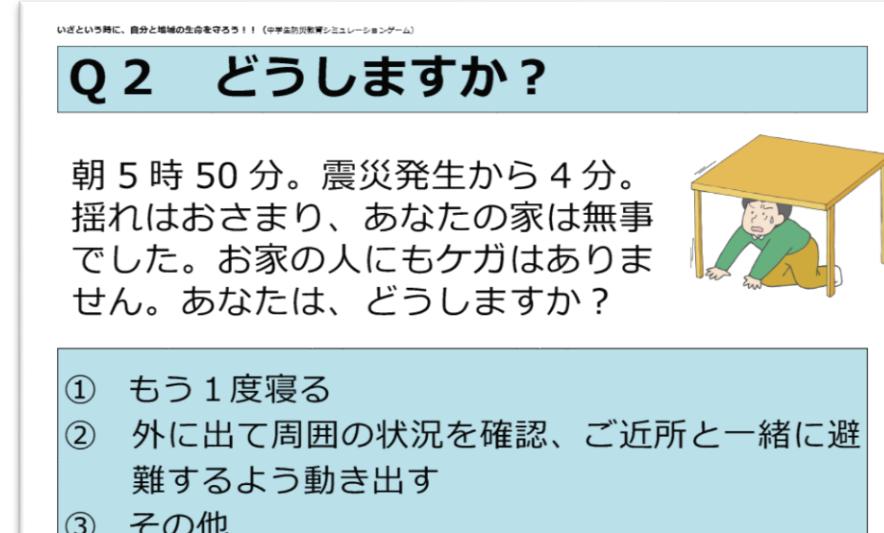
- ① 「がんばって。早く逃げて」と声をかける
- ② 子ども1人の手を引く、あるいは1人を抱っこして、お母さんと一緒に逃げる
- ③ その他

筒井中学校（6月27日）Aパターン



震災時クイズで生徒ら防災学ぶ
青森・筒井中
防災の普及、啓発に取り組む一般社団法人「男女共同参画地域みらいネット」が26日、森市立筒井中学校で震災に関する講習会を実施し、2年生約130人が参加した。
この日は、2011年の東日本大震災時、普段から防災教育を実施していたことから、生徒に被災が出て、域住民の避難にも貢献したとされる岩手県石市の釜石東中学校との取り組みを紹介。また、ケルーフワクで震災を想定した

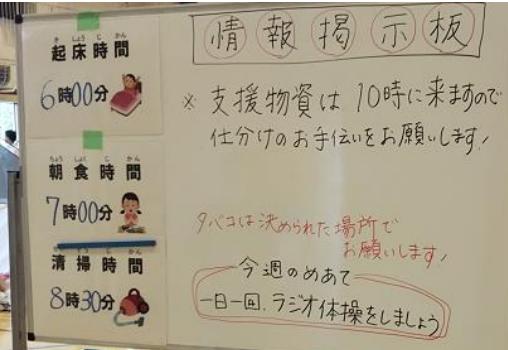
この講習は生徒の防災意識の向上を図ろうと同法人と青森市内の中学校が協力して実施。11月までに市内8中学校で計11回開催する予定という。参加し



新城中学校(8月20日、9月5日、6日)

2019.0905

青森市立新城中学校「避難所運営体験」



Bパターン

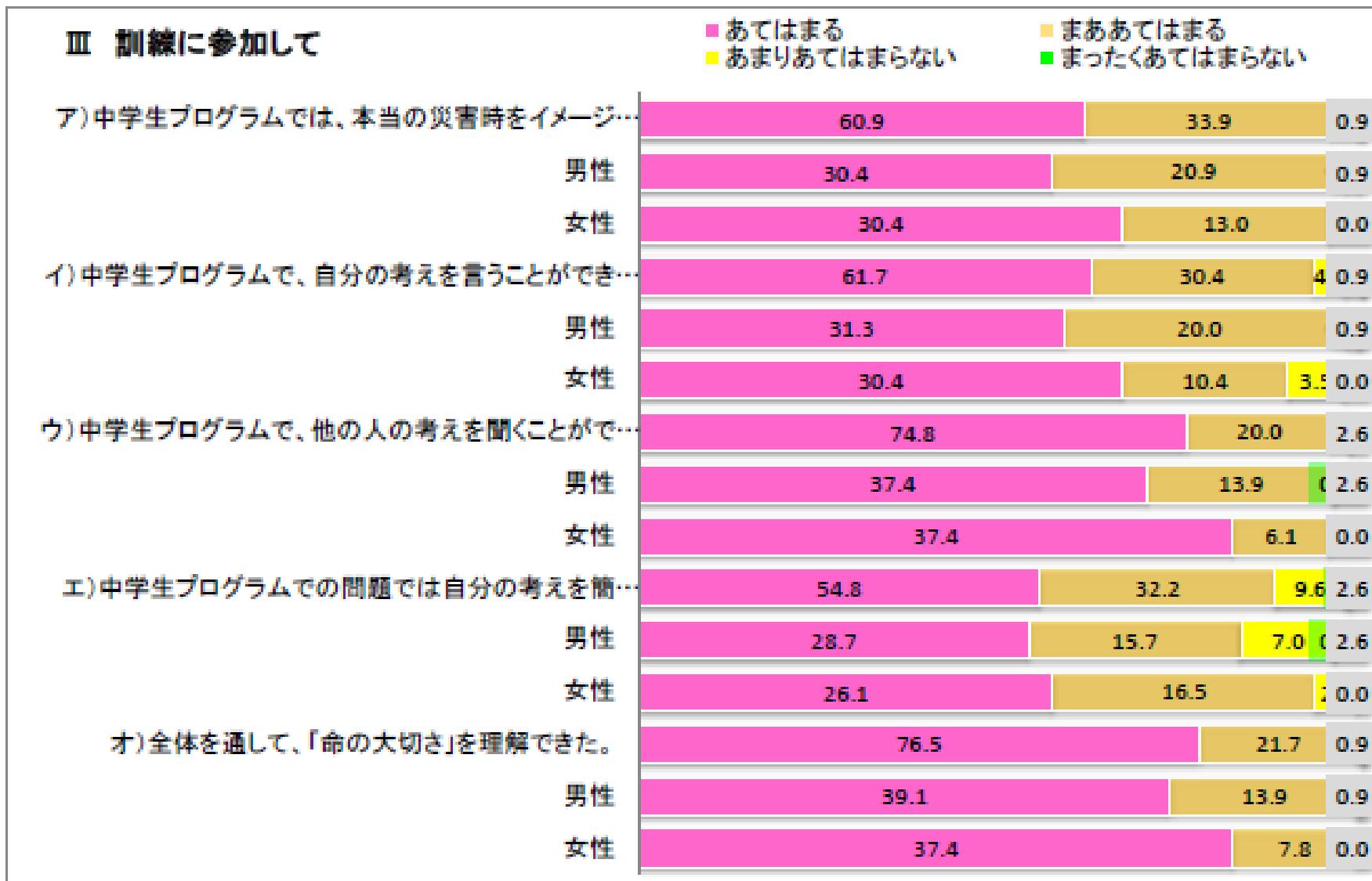


青森東中学校（8月18日）

Cパターン



アンケート結果 (筒井中学校2学年)



自由記述 (防災教育プログラムの中で、次の項目について気づかされたり考えたりすることはありましたか。ありましたら、具体的にお書きください)

災害時、自分で判断し、行動する力が大切である

- 一番安全な事は何かを考えて、落ち着き、素早く行動することが大切なんだと思いました。
- その場に応じた対応や判断が大切だと思った。
- 今日出された質問は、どれもとても難しかったです。その場に応じて適切な判断をするために、どうしたら良いかを考えるのはとても大切だと思いました。
- 地域の人達と協力して一人一人の命を皆で守らなければならぬ。
- 自分一人だけが助かるのではなくて、お互いに助け合うことが大切だということを学びました。

中学生でも地域のために役に立てることがある

- まわりにいるお年寄りの人や子供がいたら一緒に避難所へ逃げたり、声掛けをしたりして地域の人を助けたいと思いました。
- 中学生でも一人の命を救えるということにシミュレーションゲームを通して気づいた。
- 中学生でも、子供を誘導することや避難経路を確認することができるなど感じた。
- 自分から率先して避難することで周りの人の精神的なサポートにつながること。
- 地域のために自分ができることが無いかを見つけて実行すること。

その他、普段では気づかぬことに気づいたことはありますか

- 自分の学校がどのくらい安全かは考えたことがなかった。今回の授業で改めて地震と津波の怖さが知ることができました。
- 「この場で死んでもいい」と言ったおじいさんの問題が難しかった。理解し合えばいい。
- 学校や家から海とかが遠いと思っていたけど、川とかがあり危険などだと改めて感じました。
- これまで、このような防災について考える機会が無かったので、普段から災害に備えるのは大切だと改めて気づいた。
- 自分一人だけの命だけを守るのではなく、地域全体の命を地域皆さんで守るのが大切だと思った。

成 果

- ① 中学生が「人権や命の大切さ」、「考える力」、「判断し行動する力」、「生きぬく力」を身につける。
- ② 中学生でも地域のために役に立つ力を持っているということを知ることで、地域への関心や愛着感が生まれ、地域コミュニティの形成につなげる。そして、やがては地域の宝の人財となっていく

来年もやり
たい！

教育

目指すは、青森
市の中学校全部
が防災教育に取
り組む！